

# バプテスト 北九州地方連合ニュース

発行日:2022.10.2 | Vol.48 | 発行者:谷本 仰

## 奉仕する喜び ー新たな教会生活のはじまりー 伊藤光雄(シオン山教会)

日本バプテストシオン山教会は7月3日(日)に教会創立100周年を迎え、同日の午後北九州地方連合に加入する諸教会のみな様と一緒に動画配信を併用して記念式典を行なうことができましたことを心から感謝いたします。



私たちが教会創立100周年で掲げた主題は「感謝と前進」です。感謝はこれまでの100年の歩みに対する主への感謝であり、前進はこれからのシオン山教会の歩みであり、私たちの教会生活のはじまりです。

教会創立100周年を迎えた私たちが大事にしなければならないことは100年の感謝以上にこれからのシオン山教会、そして私たちの歩みです。そのような大切なとき、今年2月末日に解散した光キリスト教会の方々と一緒に新たな教会生活が始まったことを心から感謝しています。光キリスト教会が解散時10名の現在会員のうち9名がシオン山教会に転籍されて3月からシオン山教会の教会員として共に主日礼拝、諸活動に参加し、7月3日(日)の記念礼拝、記念式典ではいろいろとご奉仕してくださいましたことは心からの喜びあり感謝です。下記にお二人からの寄稿をお願いいたしました。

### 「感謝と喜び」木村正美(シオン山教会)

シオン山教会でバプテスマを受けて今年で50年になりました。この節目のときに再びシオン山教会に戻ってきました。2022年3月6日シオン山教会の方々に温かく迎えていただいた、この日を忘れることはないと思います。感謝の一言です。今年シオン山教会は教会創立100周年の時を迎え記念式典の準備が進んでいました。コロナ禍にあってもできると熱心に話し合いが行われていました。

企画の一つである「花プロジェクト」の作業に声をかけていただき、みなさまと一緒に楽しい時間を過ごしました。また記念式典当日にも役割をいただき、緊張感をもって過ごしました。そしてシオン山教会の一員としての喜びも感じる事ができました。これからのシオン山教会の一員として、信仰の仲間と一緒に祈りながら前に進んでいきます。

### 「おかえり」金井佳世子

光教会を閉じてシオン山教会(私の出身教会)に転会したときには、多くの方々から温かく迎えていただきました。特に以前、一緒に教会生活を送っていたときの方々から「おかえりなさい」と声をかけていただき感謝に堪えませんでした。その気持ちから若いときに参加していた聖歌隊の奉仕に参加させていただきたいと思いました。みな様の温かい気持ちで自分のできる奉仕として参加できとてもうれしく思っています。神様への感謝を少しでも表していければと思っています。



### 白杵教会 連合まつり 目下準備中

10月10日(月・休)に行われる連合まつり in 大分のために大分三教会の方々が多くの準備をして下さっています。白杵教会の方々は連合まつりに備えて手話賛美の練習を重ねています。当日が楽しみです。初めて北九州エリア以外で行われる連合まつり。みんなで白杵に行って楽しい交わりと学びの時を持ちましょう。(本山大輔 総務財務委員)



### これからの予定

- 10月 4日(月)宣教支援センター運営委員会 14時@シオン山教会
- 10月 10日(月)連合まつり in 大分 13時~15時半@白杵中央公民館
- 10月 25日(火)遠賀川流域牧師会 10時@若松教会
- 10月 30日(日)北九州マルシェ(連合総会前) 14時@シオン山教会
- 10月 30日(日)連合臨時総会 15時@シオン山教会
- 11月 7日(月)女性化BWA集会 10時@北九州教会
- 11月 14日(月)連合牧師会・カリス会 10時@Web



**第17回 あじさいコンサート**

場所:若松バプテスト教会  
日時:2022年6月11日(土) 午後2時より  
入場:無料

出演(順不同)

- 永町美歌 (フルート独奏)
- 田中 恵 (手話賛美)
- 島田オカリナクラブ ピアチエーレ (オカリナ合奏)
- フラ ハーウ オ ブレイ (ワグダンス)
- にこども (二胡アンサンブル)
- グローリー・リンガーズ (ハンドベル)
- 永町愛子 (ピアノ独奏)
- ロッキー&マハラ (歌七キター)

場 所:若松バプテスト教会  
若松区栄盛川町9番1号  
問合せ先:☎093-761-1492  
主 催:若松バプテスト教会  
(駐車場約30台あります)

## 手話という言語で賛美を届ける

去る2022年6月11日若松バプテスト教会において「第17回あじさいコンサート」が行われました。昨年に引き続き「手話賛美」でオファーをいただき2回目の出演となりました。混沌とした世界を生かされている今、私は何を歌えばいいのだろうか…。この小さな私ができることは何だろうか…。そして「かみさまがつくられた」と、アッシジの聖フランシスコの「平和の祈り」の2曲を、声による歌と手話による歌で同時にお届けしました。手話はろう者の生み出した言語です。音声言語の文化である歌をろう文化の手話に置き換えるというのは大変な作業です。言葉をそぎ落とし、韻を踏み、聞くものに想像する余地を残して手渡す歌詞や詩に対して、手話は目で見てわかるように具体的に表現します。例えば、詩の一節に「憎しみのあるところに愛を」とあります。詩としてはスッと通り過ぎると思いますが、手話で「憎しみ/ある/愛/あげる」と単語を並べて表現しても、ろう者はピンとこないでしょう。そもそも「憎しみ」は黒い煙のような姿でふわふわと浮いているわけではなく、「憎しみ」という感情を抱いている人」がいるわけで、人が憎しみ争うのです。一方で愛し許し合う「時」があるのもまた人です。ですから、「時」と補い「憎しみ/ある/時/愛/あげる」と表し、「争いには許しを」も単に「許し/あげる」ではなく、争っている複数の人をイメージして「仲直り/あげる」と表しました。そうやって歌詞の内容を手話により見える形にして目の前に展開していくうちに、クライマックスの「主と共に死ぬことは主と共に生きること」という歌詞が力をもって迫ってきました。そうだ、私は一人ぼっちではない。復活のいのちであるイエスさまと一緒に生きているということが、私の希望であり力の源だ、と。手話の歴史は聴者により迫害されろう者の歴史です。大切な手話を教えてくださったろう者に感謝しつつ、これからも大切に手話賛美をしていきたいです。【田中恵(直方教会)】

## PickUP! CONTENTS

- ➔ 連合教会情報 「シオン山教会創立100周年」
- ➔ 連合新着情報 「連合まつりin大分 目下準備中」